

足こぎ車いすを自分でこいで マラソン大会に参加

障がい者ランナーをマラソン大会へ！
共に走って感動2倍！

主催：認定NPO法人ぽっかぽかランナース

<https://www.pokarun.com/>

私たちはあらゆる障がい者ランナーに伴走ランナーをマッチングして、マラソン大会出場のサポートをしています。特に身体障がい者ランナーには「足こぎ車いす」を使用していただき、自分の足で風を感じていただいています。「足こぎ車いす」は車いすにペダルがついていて、ペダルをこぐことで、前に進みます。右足・左足のどちらか少しでも動かすことが出来たら、動かすことができるのです。「私の足が動いてる!」と感動される方も多いです。知的障がいのある方には「社会のルール」を学ぶ場であったり、社会参加することで自立支援にもつながっています。

宝塚と大阪で練習会を開催、年間6～10大会に出場しています。伴走ランナー・ボランティア・障がい者ランナー・家族とクリスマス会やバーベキュー大会、うどん作りなどで交流の場を作っています。障がいもそれぞれ、年齢も3歳から82歳とバラバラですが、気持ちをひとつにして、目標のゴールに向かって頑張っています。いろいろな障がいを理解する「ぽっかぽか講習会」を年3回開催し、伴走ランナーの育成と地域の方にも参加していただき、地域貢献につなげています。



電話：080-5333-4728

メール：npo@pokarun.com

担当者：林 優子

新しい産官学連携地域振興イベント 「CYCLOG in 神戸」

学生の考えるサイクリングイベントによる地域観光振興

主催：CYCLOG in 神戸実行委員会

<https://kobe.4969.jp/>

今回、応募いたします「CYCLOG in 神戸」(主催・CYCLOG in 神戸実行委員会)は2021年に関西を舞台として開催される「ワールドマスターズゲームズ2021」を応援するために、神戸山手大学観光文化学科・西村ゼミを中心に、神戸観光局、イベント企画運営会社の株式会社Seabirdが産官学連携を組んで平成30年11月11日に開催したサイクリングイベントです。

同学科は世界中から留学生が集まる国際色豊かなキャンパスですが、今回のイベントではその多彩さを活かし、「学生の目」「留学生の目」といった、普通の観光振興イベントでは成し得ない視点をフィルターとして組み上げました。そこに神戸の観光行政を担う神戸観光局が会場準備や観光事業者などとの調整を行い、民間の株式会社Seabirdが学生でもイベント開催を可能にするイベントソリューションシステムの「CYCLOG(シクログ)」を提供し、共同で開催にあたりました。

結果として広い神戸市内を自転車で周遊してもらい、「スポーツの街・神戸」とその魅力や歴史を参加者に知ってもらうという第一の目的は達成できました。さらにシステムを利用したSNSによる神戸の魅力の拡散や、参加者によるダイレクトな地域への消費投下とそのログデータ収集も実現。2年目の開催も計画しており、神戸の大学として神戸への寄与を高めていきたいと考えています。



電話：03-6883-5845

メール：nochi@seabird.jp.net

担当者：野地 教弥

マイクリング・プロジェクト (米原×サイクリング) 市民がつくる駅拠点のサイクルツーリズム

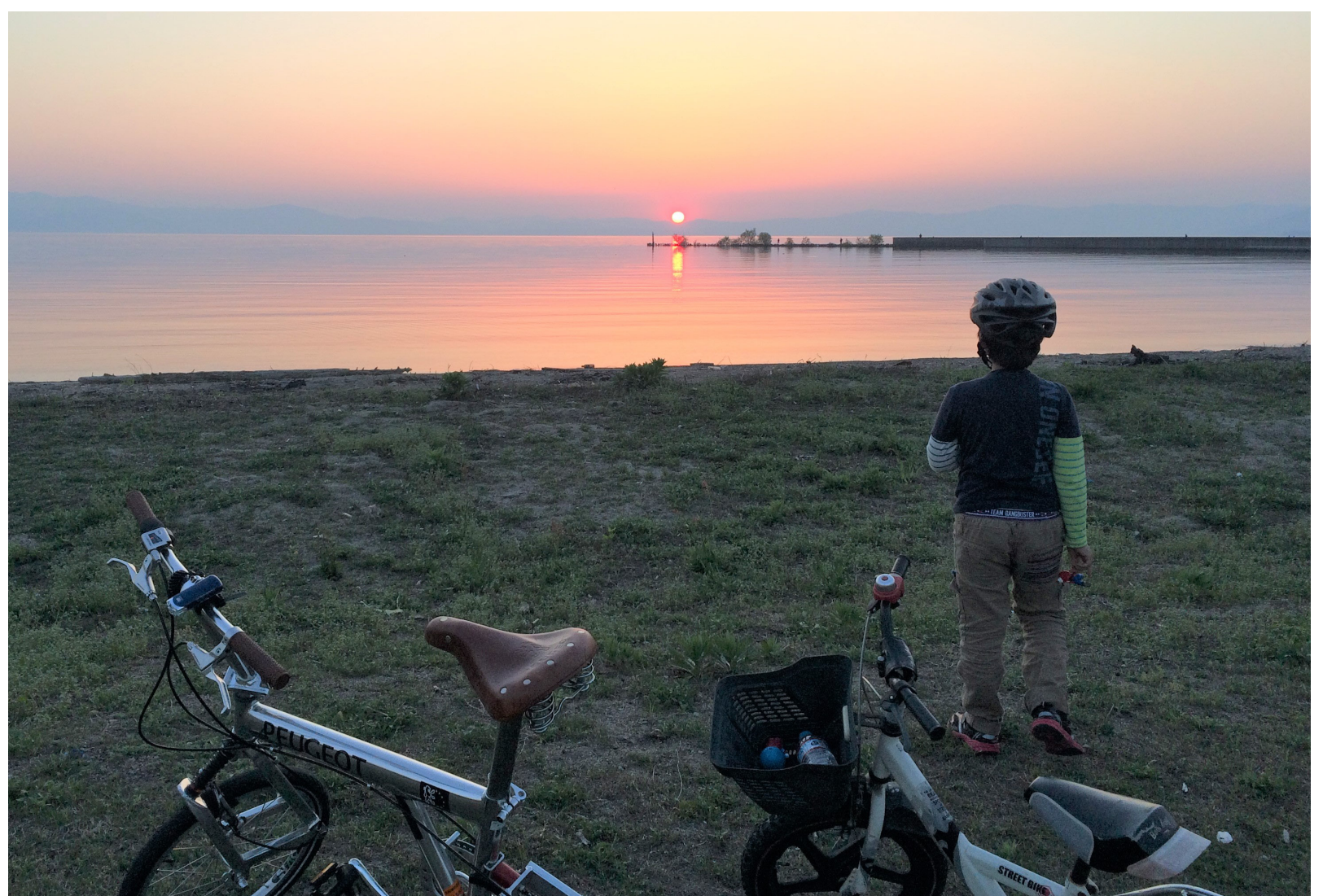
～滋賀県の玄関口「米原」からはじまる自転車旅～

主催：市民団体 マイクリング・プロジェクト

<https://www.facebook.com/myclingproject/>

日本一の湖「びわ湖」を巡るサイクルアドベンチャー「ビワイチ」が注目される中、市民団体マイクリング・プロジェクトは、交通の結節点である米原の特性や、県内唯一の新幹線停車駅やサイクルトレインが接続することに着目し、米原駅サイクルステーションを提案し、その実現に結びつけた。これにより、ビワイチや近江鉄道サイクルトレイン、中山道や伊吹山麓を巡る里山サイクリングなど、米原駅を基点に県下を巡るサイクルツーリズムの仕組みが確立し、交流人口の拡大に貢献し、県外や海外からの利用者の利便性を向上させ、日常的に米原駅を起点とする自転車旅を楽しめる環境の整備につながっている。

また、全国初の市単独認定となったジャパン・エコ・トラック「びわ湖・伊吹山」の登録や、国土交通省主催の「水の里の旅コンテスト2017」最優秀賞の受賞、県内初の体験型サイクリングイベント「びわ湖の素・米原グルメライド」の実現など、県内・市内でのサイクリングの機運の醸成に貢献し、市民の手による滋賀県オリジナルのサイクルツーリズムの推進を実現している。



電話：090-6590-7679 メール：Kacchan101612010312@yahoo.ne.jp

担当者：副代表 横田 勝也

担当者：我部 乱

ジュニア トレイルランニング

～自然の中を走って強く優しいトレイルランナーになろう～

主催：FUJIO PROJECT

<https://www.fujioproject.jp>

未就学児～中学生を対象とした、山道などの不整地で行うランニングの大会です。スポーツを楽しむ経験とアウトドア体験を通して、運動能力・持久力だけでなく、危険回避能力や譲り合い・助け合いの精神を子供たちに身に付けてもらうことが目的です。保護者の部門も設けており、かつ近隣の方々のボランティアを中心に運営しているため、多くの大人の健康増進や家族交流・地域交流の場ともなっています。

日常的に活用されているとは言えない場所が会場となることが多く、大会を開催することでその場所への関心を高め、その魅力の再発見や整備活動へと繋がっています。2011年から東京をはじめ、神奈川、山梨、千葉、長野などで計30回開催し、地域メディアに取り上げられることもあり、認知度が上がっているため、参加希望者は年々増加しています。開催地から離れた県からの参加や、日本在住の外国の方々の参加も増えている。そのためお土産の購入・食事・宿泊など、さらなる地域振興にも貢献しています。開催にあたっては、地域自治体との事前協議・周知を徹底しており、また、協賛企業の後援や参加費をベースに実施しているため、安全でかつ長く持続可能な活動となっています。子供たちの健全な成長と地域活性化の要素を併せ持つ大会です。



電話：090-5305-7773

メール：fujioproject@gmail.com

担当者：宮地 藤雄

校庭芝生化と障がい者 スポーツの里づくり

主催：一般財団法人どんぐり財団

<http://kh-donguri.or.jp>

当法人は、子どもの体力向上、スポーツ環境向上のために校庭芝生化を推進してきた。これまでに町内の保育園1園、小学校4校の芝生化のサポートを行ってきた。より安価で身近に芝生化が行えるよう、特許庁より芝生の商標登録も受け、県内外へも芝生の販売・普及を実施してきた。そんな中、町内の芝生化したグラウンドを持つ小学校が廃校となることが決定し、跡地活用を模索する中、広島で誕生したアンプティサッカーチームアフィーレ広島AFCが本拠地として学校跡地を活用することとなった。

これをきっかけにチームと地域住民との交流が盛んに行われるようになり、町内での障がい者スポーツ振興にも発展した。今年度は、小学校へのアフィーレ広島派遣によるアンプティサッカー交流やセルジオ越後氏の障がい者スポーツを考えるシンポジウムなど様々な取り組みが行われ、地域内でのアンプティサッカーへの認知度は急速に高まっている。今後は、町内に複数ある芝生化した小学校グラウンドや中学生ボランティアを活用し、アンプティサッカーの全国大会、国際大会開催を目標に障がい者スポーツの里として取り組みを強化していく。



電話：0826-84-1414

メール：s-sugimoto@toyohira-wing.jp

担当者：杉本 聡一郎